



昨年からはまったアートカクテル。昨年は42人110点で、今年では37人98点で展覧会が構成された。昨年より少ないのに多く感じたのは、やはりアーティストと作品と画廊の熱気であろう。見る者はこれに負けずに買うしかない。参加アーティストを記す。大森梨紗子、古賀亜希子、十河正典、前田精史、吉岡まさみ、鍵井保秀、田崎亮平、中村陽子、槇野央、甲斐千香子、田邊光則、西山真実、松尾夕姫、IZUMI、カセイ・イノウエ、島花梨、松本聡子、宇野和幸、片岡操、平石裕、ミリツァ・ニコリッチ、大串孝二、勝田徳朗、関水由美子、中村宏太（三点出品）、相澤秀人、中村ミナト、イヴァ・ハラディス、小口あや、石原ケンジ、佐藤全孝、中澤小智子、萩谷将司、鈴木純子、永野のり子、廣末勝己（二点出品）、望月久也（一点出品）。いずれもステップスで個展若しくはグループ展に参加している、馴染みの深いアーティストではあるが、未発表の作品なども展示して、驚きの多い展覧会であった。4月22日には吉岡の「略歴の書き方」のレクチャーがあり、私は酩酊で参加

し泥酔したので、報告を記す資格を失った。DMに「作品との出会いは、私たちの人生を大きく動かしてくれる力になってくれるのです。一度しかない人生の「お土産」ではないでしょうか。生きている記念が見つかるかもしれません」と記されるように、オーナーの吉岡まさみは作品を多くの人々に買って貰うことを望んでいる。そのために、小品で、多くのアーティストと見比べることができるアートカクテルに力を入れている。作品を購入して人生が変わることを私自身が体験しているので、吉岡の発想には心から同意するのであるが、現実にはそのように感じている人間が少ないことは確かだ。「人生を変えたくない」と望んでいる人間をどのように導いていくか。購入ではなく、人生の変化が不可欠なのだ。一枚の美術作品と出会うことは、一人の新しい友人を発見することに等しい。発見する勇氣をどのように伝えるべきか。

